

# こぶしの花\*

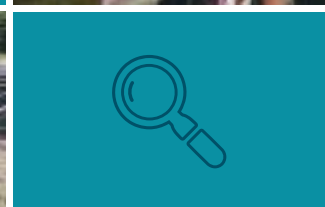
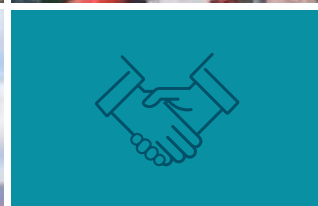
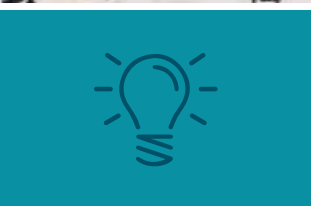
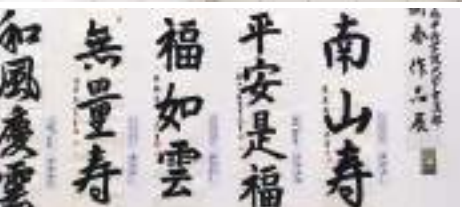
vol. 114



## 特集 攻めの国際交流



International Exchange



**Pick Up! 翔麗祭、つくってみた。**..... 4

青森中央学院大学..... 6

青森中央短期大学..... 8

青森中央経理専門学校／青森中央文化専門学校..... 10

附属第一・第二・第三幼稚園／中央文化保育園／浦町保育園 ... 12

学園共通..... 14

お花見、七夕、リンゴの収穫、紅葉狩り…。  
一年を通して、日本・青森の文化や自然を体験しながら  
海外留学生と日本人学生が交流しています。

# 攻めの 国際交流



▲留学生をはじめとする学部生・大学院生28名に学位記を授与した、青森中央学院大学秋季学位記授与式(2025年9月10日)

グローバルな視野をもつ人材の育成に努めている本学では、多くの海外教育機関等と交流協定を締結し、留学生の派遣や受け入れを活発に行ってきました。また、国内外の教育機関等との交流促進、日本人学生の海外留学、外国人留学生の支援、国際交流に関わる地域との連携を促進するために、本学ならではのさまざまな国際交流事業を展開しています。

## 01 グローバル人材養成プログラムで攻める!

青森中央学院大学経営法学部には、語学力とコミュニケーション能力が重視されるグローバル人材を育成するための基礎的なプログラムを設置しています。はじめに、入学直後のTOEIC成績優秀者を選抜し、1・2年ゼミでグローバル経済に関する知識とデータサイエンスの基本スキルを身につけます。メイン科目の「グローバル特講」では、海外企業家との交流や、長期の海外インターンシップに挑戦するなど、英語を交えた実践的なプログラムが用意されています。

### グローバル人材養成プログラム推進委員に聞く、このプログラムのすごいところ

このプログラムは「自己成長」を促します。本学では「グローバル人材」を、『複数の国にまたがる諸活動において成果を出せる人材』と位置付け、ビジネス領域に限らない「国際人の育成」に力を入れています。当プログラムが掲げるスキルアップとマインドの醸成は一朝一夕に成し遂げられるものではなく、学生が継続的に学習し、諸外国との接点で出会う様々な背景の人々と交流しながら国際経験を得ることで達成されます。

この目的にもとづき本学は、海外経験豊富な元エリートビジネスマンや実務経験を担当教員として配置し、日々学生

指導に当たっています。また、当プログラムに取り組んだ学生は、プログラムの集大成として「2ヶ月から半年程度」の海外インターンシップに臨む機会を得られます。これまで学生が渡航した先は米



▲オンラインで海外事業家と対話する井原孝延教授のグローバルゼミ

国、インド、シンガポールで、学生の性格や志向に合わせ、受け入れ先の企業等とのマッチングを行い、渡航後もサポートします。(経営法学部講師 榮田 育子)



▲プログラム科目のひとつである榮田講師のキャリアプランニング

### グローバル人材養成プログラムを受講し、3年次にインドのインターナショナルスクールでインターンシップを体験した金澤温さん

「行ってみよう。」そんな軽い気持ちでインドでの5カ月間のインターンシップを決意しました。入学から出発までの2年半にグローバル人材養成プログラムで、英語力向上と異文化理解、国際ビジネスのケーススタディ等の授業に取り組んだことと、大学と受け入れ先の事前準備があってこそ実現したインターンシップ体験でした。同様の経験をした先輩からの助言や経験談等、大学のサポートも大いに励みになりました。ティーチングアシスタントとして臨んだインターナショナルスクールでのインターンでは、児童・生徒や他の教員との意思疎通に悩み、思いがう

まく伝わらず落ち込む日もありました。それでも諦めずに伝える努力を続けるうちに次第に会話が弾み、広く関係者との信頼関係が生まれていったように思います。自分が提案した授業がうまくいった時には、大きな達成感とともに「自分の言葉で動かせた」という自信が芽生えました。この経験を通して、私は「伝える力」と「違いを受け入れる柔軟さ」、「困難に直面しても前

向きに行動する姿勢」を身につけました。海外に出ることで、きっと自分の「新しい一面」に出会えるはずですよ。ぜひ勇気を持って一歩を踏み出してください。



▲インターナショナルスクールの職員の方々と

## 02 国際色豊かなキャンパスで攻める!

本学の留学生受入は青森中央学院大学が開学する前の短大時代から始まっており、たくさんの卒業生を輩出してきました。現在も在学学生の約一割近くが留学生で、キャンパス内にある学生寮で生活しています。留学生は、通常授業を受けながら、青森を深く理解する「青森サポーター事業」のプログラムに参加したり、地域の方々と交流するグローバル活動にも積極的に参加する等、地域貢献に力を入れています。

また、本学では海外協定校から短期研修の受入れも行い、日本の教育や青森の文化について学びのプログラムを設けています。この海外研修生のサポーター役として、本学の留学生と日本人学生が共に活躍しています。研修生たちと積極的に交流すれば、留学しているような環境も実現します。

### 異文化理解教育についての特別研究で、留学生と一緒に保育園で交流を行った 青森中央短期大学幼児保育学科2年の長畑愛香さん

この特別研究を通して留学生の方たちと関わり、日本以外の国の遊びや文化をたくさん知ることができました。留学生とのコミュニケーションに最初は苦戦することもありましたが、ベトナムの「DA CAU (ダーカウ)」という遊びを子どもたちに教えるために練習をしている中で、自然とコミュニケーションできるようになり、流行っているアニメのことや国の文化などを教えてもらいました。いろいろ

な国のことを知っていくにつれて、子どもたちにもこんなことやあんなことを教えたいという思いが強くなり、自分自身もたくさんのことを調べるようになりました。日本以外の文化を子どもたちに伝え、体験してもらう経験を重ねていくことで、異文化理解へ繋がると思っています。これからも交流の中でたくさんの発見をし、幼児期の子どもたちだけでなく、いろいろな世代の方に伝えていきたいです。



▲おおぼし保育園 (青森市) での異文化交流

### 短期研修で来学した馬借医護管理専科学校看護学生と交流した 青森中央学院大学看護学部1年の石川陽奈さん

海外の看護学生と交流して、最初は言葉の壁とコミュニケーションの難しさを強く感じました。日本語が通じない場面があり、思うように伝えることができず、言葉の難しさはありましたが、お互いに笑顔で関わろうとする姿が印象的でした。学生の皆さんが明るく積極的に話しかけてくれたので、嬉しい気持ちになりました。実習室を案内した際には、看護で使用する物品に興味を持ち、「こ

れは何に使うの?」と目を輝かせて訊いてくれました。昼食の時間には、それぞれ好きなお菓子を持ち寄り、趣味やアニメの話で盛り上がることができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。言葉が通じなくても共通の話題を通して、自然と距離が縮まることを実感しました。相手を理解しようとする気持ちが大切であるということを学ぶ貴重な機会となりました。



▲馬借医護管理専科学校看護学生とのランチ交流会

## 03 学生それぞれに合わせた留学プログラムで攻める!

本学の海外留学プログラムには、長期(交換留学)留学プログラム、短期・中期留学プログラム、海外インターンシップがあり、自身のスケジュールに合わせたプログラムが選択可能です。行先も中国、韓国、台湾、タイ、ベトナム、オーストラリア、アメリカにある海外協定校(現在24校)の留学プログラムから選ぶことができます。語学準備講座や留学奨励費制度など、留学にあたってのサポート体制も充実しています。

### 夏休みに釜山外国語大学校の短期留学プログラムに参加した 看護学部1年の浅見日向さん

私は3週間の韓国短期留学に参加しました。この留学を通して、文化の違いやコミュニケーションの難しさを学びました。私が一番大変だと感じたことは文化の違いです。韓国は浴槽につかる文化がなく、トイレトーパーも流せません。また、外出中のトイレは百貨店または公衆トイレしか使えないため、不便さを感じました。もうひとつはコミュニケーションの難しさです。留学先には他

国の学生も参加していました。授業ではペアワークがあり、自分から積極的に韓国語で話しかけたり、翻訳機を使ってコミュニケーションを取りました。これは韓国語を学ぶ良い機会となりました。大変なことや難しいこともありましたが、文化体験や学生交流でも貴重な体験ができました。初めての留学でしたが、この経験をこれから役立てていきたいと思いました。



▲同じプログラムに参加した本学学生と韓国料理体験

PICK UP

# 翔麗祭、 つくってみました。

短大

学院大



2025年9月20日・21日の2日間、青森田中学園祭「翔麗祭」を開催しました。今年のテーマは「翔麗祭、つくってみました。」です。今までとは違う新しい翔麗祭を学生の手でつくりたい、やってみたい、という思いを含め、青森田中学園設置校の青森中央学院大学・青森中央短期大学・青森中央文化専門学校・青森中央経理専門学校の実行委員が学園祭を運営しました。

初日は開会式を野外ステージで行い、学科やゼミ、サークル等の模擬店が屋外にずらりと並び、にぎやかにスタートしま

した。悪天を考慮し、午後からは屋内に切り替えての実施となりましたが、ステージ発表やアイドルグループpacchiのライブ、日本語スピーチコンテスト、ビブリオバトル、展示、模擬店グルメ等、それぞれの出し物を目当てにたくさんの方が訪れました。2日目も風の影響を考慮して、ファッションショーを除く全てのイベントは屋内実施となりましたが、お笑いライブや本学アンバサダーの王林さんのステージ、ビンゴ大会等で大いに盛り上がった2日間となりました。

## 翔麗祭スナップ



## Ourin - 王林 - ミニLive&トークショー

卒業生でアンバサダーの王林さんが、今年も翔麗祭ステージにゲスト出演しました。体育館で行われたミニLiveでは歌とダンスを披露し、トークショーでは王林さん企画のファッション対決が行われました。自身のアパレルブランド「What Is Heart(WIH)」を持つ王林さんからは、学生たちにアドバイスをいただきました。



### ファッション対決に出場した青森中央文化専門学校学生の感想

2025 秋冬の流行を取り入れつつ、テーマが「彼氏とスポーツ観戦デート」なので女の子らしくするため、ミニスカートと靴下でレースを取り入れながらキャップやスニーカーでスポーツミックス感を出し、コーデのバランスをとりました。アパレル系学生としてたくさんのファッションを学んでいますが、このような機会で自分には無い感性に触れ、新たなファッションを知ることが出来て、とても楽しかったです。

## 第23回日本語スピーチコンテスト



ベトナム、タイ、マレーシア、中国から7名の留学生が登場し、母国と日本の違いや社会問題、日本での体験などについてスピーチしました。審査には青森高校、青森南高校、青森明の星高校、東奥学園高校の生徒の皆さんが本学学生と共に審査に加わりました。



## 第12回全国高等学校

### ビブリアバトル



## 青森県大会2025

県内高校7校から12名が参加し、書評合戦を繰り広げ、チャンプ本が決まりました。



## 青森中央文化専門学校ファッションショー「NEXUS」

1日目は雨天で中止となりましたが、2日目は風が強かったものの、野外ステージで、それぞれの作品を披露することができました。



## 青森中央短期大学

### 同窓会卒業生の集い

短大同窓会主催の「卒業生の集い」を2日間にわたり開催しました。先輩や後輩、先生方が教室に集まり、お茶やお菓子をいただきながら懐かしいお話に花を咲かせていました。



## 硬式野球部の横山永遠選手が プロ野球北海道日本ハムファイターズ育成2位に指名されました

硬式野球部の横山永遠選手（経営法学部4年）が、2025年プロ野球ドラフト会議において、北海道日本ハムファイターズより育成2位指名を受けました。横山選手は八戸学院光星高校出身、投手と打者の「二刀流」として北東北大学野球1部リーグで活躍してきました。



横山選手は会見で「指名は夢だと思っていたが、今までやってきたことが形になって素直にうれしい。今後も練習を続け、プロで活躍しているレベルの高い選手に追いつきたい。自分のプレーを見てくれるみんなが元気になってくれるような選手になりたい」と抱負を語りました。硬式野球部の櫻井監督は、「絶対にプロ野球選手になる」という強い気持ちで、一日一日を無駄にせず努力してきたことが、今回の指名につながった。今後は一日でも長くプロの世界で活躍してほしい」とエールを送りました。横山永遠選手、おめでとうございます。



▲ドラフト指名後の記者会見



▲球団関係者による指名あいさつ



▲母校の八戸学院光星高校を訪問



## LIGA Summer Campの 運営スタッフとして活動しています

2025年8月2日から11日まで「LIGA Summer Camp 2025 in北海道」（一般社団法人Japan Baseball Innovation主催）が開催されました。LIGA Summer Campとは、甲子園球場で行われるセンバツ高校野球大会に出場しなかった全国の高校3年生が集まり、リーグ戦を行う個人参加型の企画です。2回目となる今年には全国各地から64名が集まりました。私は昨年の初開催から運営スタッフとして携わっており、今年も前回の反省点を踏まえてミーティングを重ね、県外

にも足を運んで、準備や広報活動を主体的に行ってきました。

開催期間中は、Instagramの内容企画・素材集め・編集・投稿や、試合運営・環境整備を行い、北広島市役所川村副市長の講話をはじめとする多くの企画の司会を務めました。また、「エスコンフィールド北海道」での最終日の試合でも、試合のアナウンスや、試合前・試合中のイベント進行などを行いました。今回の成果のひとつは、Instagramのフォロワー数を1年間で約1,000人増やし

経営法学部3年 山内 美月

たことです。参加した選手の中には、Instagramを見てエントリーした高校生や、昨年参加した選手から話を聞いて、参加を決めたという高校生もいました。

いつも応援してくださる関係者の皆さんや、参加選手と保護者の皆さんのおかげで、ようやくこれまでの活動に自信が持てるようになり、感謝申し上げます。今年初の試みとしてYouTube配信も行いました。ぜひご覧になって下さい！



最終日：  
エスコンフィールド  
北海道での試合



Instagramのフォローも  
よろしくお願いします！



## ■ 看護師特定行為研修 「在宅・慢性期領域パッケージ」がスタート

看護実践センター長 一戸 とも子



本学が2020年に特定行為研修指定研修機関の指定を受けて以来の念願であった「在宅・慢性期領域パッケージ研修」(以下、在宅パッケージ)が、本年8月に厚生労働省の承認を受け、10月1日から6期生(研修期間2025.10~2026.9)の研修がスタートしました。これにより、本学特定行為研修では、既指定区分の「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」に加えて、「在宅パッケージ」の受講が可能となりました。これは、気管カニューレの交換、胃ろうカテーテルや胃ろうボタンの交換、褥瘡などの創傷管理といった、長期療養患者の看護や訪問看護領域において実施頻度が高いと想定され

る特定行為をまとめた研修で、地域の関係者から強く期待されています。

現職の看護師が働きながら受講できる特定行為研修について、詳しくは本学HPをご参照、または本学看護実践センターへお気軽にお問い合わせください。



▲2025年10月1日に行われた第6期生入講式

## ■ 「飛翔式」を行いました

「飛翔式」は、看護学部2年生が、基礎看護学に引き続き、幅広く専門科目を学び始める2年次後期に大学で看護学を学ぶことの意義を探究し、今後の学修に臨むにあたっての学修の志を明確にするために行われているものです。

私たちは、2025年10月18日に飛翔式を無事に成し遂げることができました。



看護学部2年 成田 椿季



この日のためにみんなが協力して準備を進めてきました。

初めての学生主体の行事であり、不安もありました。しかし、みんなで意見を出し合い、作り上げる過程を通して、強い団結を感じました。今年は校歌斉唱を行い、最初はうまく声が揃わず不安でしたが、練習を重ねるうちに、気持ちがひとつとなり、本番では心を込めて歌うことができました。

飛翔式では、これまでの努力を振り返る機会となり、これからの実習や勉強への意欲がより一層高まったことを実感しました。この経験は、仲間と支え合う大切さや、看護師を目指す決意を改めて感じる貴重な機会となりました。

## ■ 男性看護師を目指して

看護学部3年 高橋 奏翔

私は元々人と話すことが苦手でしたが、人と関わる看護師という仕事に興味があったため、「自分も人の力になれる仕事がしたい」と思ったことが、看護学部を目指すきっかけになりました。実際に学んでみると、解剖生理や看護技術など覚えることが多く、テストや実習準備で大変なこともあります。しかし、人の体の仕組みや命に関わる知識を身につけられるのはとても面白く、学ぶほど看護の奥深さを感じます。以前の自分と現在の自分を比べてみると、成長を感じています。

男子学生は少数ですが、その仲間が良く、お互い支え合える環境があります。実習では患者さんとの関わり方に悩むこともありますが、「ありがとう」や「頑張れ」の一言が何より励みになります。大変さの中にも成長ややりがいを感じられるのが、看護学生生活の魅力だと思います。



▲看護職を目指す男子高校生向け説明会FIRST STEPでのワークショップ

## ■ 研究室紹介 [研究・専門領域] 日本語教育

経営法学部准教授 田中 真寿美



私の専門は日本語教育で、留学生に日本語を教えています。研究の対象には学習者だけでなく、その周りにいる人や環境も含まれます。

私は外国から来た子どもの学習を支援する活動もしており、支援に関わる人の意識に注目しています。本学の学生もそのような子どもの学習支援に関わってくれたので、学生たちがその活動をどのように意義付けたか、活動によりどのように意識が変化したか調べました。

また、ある留学生が「日本人は日本語初級者には簡単にゆっくり話してくれるのに、中級程度に話せる自分は普通に

話されてしまい、理解できずに困った」と言うのを聞いて、日本語教師になる勉強をしている大学生に、異なるレベルの日本語学習者と話させ、相手のレベルに合わせた日本語を使っているか調べています。これにより

「やさしい日本語」使用のための指導内容の改善を図っています。このように、身近な出会いや偶然聞いたことが研究につながっています。

皆さんも本学で多くの留学生と出会うと思います。相手の国や文化のこと、考え方の違いなど、好奇心を持って接してみると、多くのことを知ることができると思います。



▲県内在住外国人のための動画教材で日本語の監修を行いました



▲異文化理解講座で「外国人と『やさしい日本語』で話す」をテーマに講演しました



## 『ちゅっぴいおすすめ!青森の味お楽しみ弁当』を開発

青森県と食物栄養学科は2012年より地産地消弁当を共同開発しており、2024年よりイオン東北と連携して取り組みを進めてきました。今年は青森りんご植栽150周年にあわせて県産りんご使用の惣菜を3品メニューに加え、昔ながらの郷土料理と、県産の食材を使って様々なアレンジした料理を組み合わせ、青森ならではの味が楽しめるお弁当としました。学生たちは宮下知事を表敬訪問し、また、店頭でも販売のお手伝いをさせていただきました。

参加した学生からは、「商品開発に携

わることができ、貴重な学びを得ました。知事を表敬訪問したときも、店頭で販売したときも、とても緊張しましたが、笑顔で食べてくださったこと、笑顔で商品を



ご購入くださったお客様を見て、嬉しくなりました。『やっぱり将来は食に携わっていきたい』とあらためて思いました』と感想がありました。



## 『簡単においしく作ろう「魚食普及レシピ」の開発』



「2025年度青森中央水産株式会社年末商品展示会」において、食物栄養学科の学生が開発した「魚食普及レシピ」の発表会を行いました。食物栄養学科では、魚離れが進む中、将来の担い手となる若年層への魚食普及を目的として、

青森中央水産株式会社と連携して調理方法を研究し「魚食普及レシピ」を開発しています。

今回の発表会では、イカ、タコ、ブリ、イワシ、ホタテを使った7品のお披露目と試食を提供しました。コチュジャンの効いたイカのナムル、タコのバターソテー、イワシは滑らかなすり身にしてあっさりとした潮汁、レモン果汁でさっぱりと味付けしたタレを絡めたブリ南蛮、ホタテの味をしっかり感じるプリンなどを提供しました。魚食普及レシピブースにも続々と人が集まり、レシピに興味

津々の来場者で大盛況となり、テレビ取材にも応じました。研究開発した学生は「簡単においしく作れるレシピばかりなので、家でも作ってほしい」、「レシピをきっかけに、魚食が広がったらうれしい」と話していました。



## 『スイーツ開発!「なみおかフードフェス」でお披露目会』



青森市浪岡中央公民館で「なみおかフードフェス」が開催され、食物栄養学科の学生が考案したスイーツのお披露目会が行われました。食物栄養学科が浪岡フードバレイ推進協議会から委託

を受けて、浪岡地区の食資源を活用したスイーツ商品開発事業の一環として、学生がリンゴやカシスを使ったレシピを計13品考案しています。

今回のお披露目会では、青森市浪岡

地区の特産品である大きくて甘いトウモロコシ「バサラコーン」の認知度を高めたいという学生の想いとアイデアのもと、地元の製パン・製菓店「小夢木舎(こむぎや)」の西塚貴代子さんと共同でレシピの開発研究を行い、試作と検討を重ねて3品をお披露目しました。スペシャルゲストとして参加した料理家の栗原心平さんから講評をいただき、学生たちはプロの料理家のアドバイスに目を輝かせていました。当日の様子はYoutubeでもご覧いただけます。





## ■ 地域におけるサークル活動に支援金をいただきました

幼児保育学科長・教授 前田 美樹



2025年9月11日、青森中央短期大学シグマ・ソサエティの地域活動への支援として、国際ソロプチミスト様より活動支援金が授与されました。この支援金は、地域におけるサークルやボランティアの活動に活用されており、本学の地域貢献を支える活力となっています。授与式は、安田会長をはじめとする4名の会員の方々と学園関係者との間で執り行われ、学生たちの様子や取り組み等が報告されました。

また、9月25日には、ビオトープサー



クルの活動視察として、附属第一幼稚園に来園されました。この日は雨天のため園内活動となり、子どもたちがキャンパス内で集めた松ぼっくりや葉っぱを活用した造形遊びが展開されました。会員の



方々は、学生や園児たちとの交流、幼稚園でのSDGsの取り組みを視察され、和やかなひとときを過ごされていました。

## ■ 橋本小学校の児童とセルクルサークルが交流しました

幼児保育学科2年 越後谷 七海



2025年9月25日、橋本小学校の児童が大学に遠足で訪れ、私はセルクルサークルの一員として参加しました。セルクルサークルでは事前に6年生の児童と打ち合わせを行い、クイズの内容やルール、ビンゴカードの作成などの準備を進めてきました。遠足当日は、1年生から6年生までの縦割りで構成された3つのグループに分かれ、私はそのうちの1グループを担当しました。一緒にクイズを解き、学生や先生に誕生日を聞いてまわる「バースデービンゴ」を行い、空いた時間にはレクリエーションを展開しました。学年差があるため、興味がわ

くとあちらこちらに行ってしまう児童がいたり、意見がぶつかって喧嘩になりそうになることもあり、まとめる難しさを感じました。それでも子どもたちが協力して答えを見つけ、クイズに正解したときの笑顔を見られたことはとても嬉しかったです。

今回初めて小学生と長い時間関わり、未就学児との違いも感じましたが、一人一人に合わせた声かけや共感する姿勢など、これまでの実習経験が活かされたと実感しました。子どもたちと共に活動する楽しさと、関わりを通して学ぶ喜びを改めて感じました。



## ■ 県内の幼稚園・保育所等合同説明会を開催

幼児保育学科講師 天間 美由紀



今年度も青森県内幼稚園・保育所等合同説明会を実施いたしました。今年度の特徴としては幼稚園・保育所のみならず、児童福祉施設の参加が例年より

多かったことが挙げられます。これまで未就学児を対象とした保育、教育をイメージしていた学生が、様々な施設を知ることで「進路選択の幅が広がった」、「少し視野が広がり施設での仕事にも興味をもった」という感想をあげていました。保育・教育・福祉の様々な施設の理念や運営方針、独自の活動を知ることは多様な選択にもつながり、保育者としての今後にも生かされていると感じています。

また、説明会にはたくさんの卒業生が

保育者として学生の前に立つことで、学生も教職員もとても大きな励みになっており、次年度も学生・卒業生・参加施設にも実りの会を開催したいと思います。



# 青森中央経理専門学校 青森中央文化専門学校

青森中央文化専門学校

## 芸術鑑賞

青森中央文化専門学校では、2025年10月9日・10日に青森県立美術館で開催されている「青森戸山高校美術科有志展 そのごの美術科vol.9」に芸術鑑賞でお邪魔しました。2003年に設立されながらも、10年間で高校の閉校とともに無くなってしまった青森戸山高校美術科。卒業生の皆さんの「いま(そのご)」がそれぞれの表現で提示されていました。この有志展には、ファッションデザインの非常勤講師である三上貴久先生(ダンボリアン実行

委員会)の作品や、本校の卒業生で現在はイラストレーターとして全国でご活躍されているトヨカワチエさんの作品も展示されており、身近な方々の普



段とは違うアーティストとしての一面を感じることができ、学生の創作意欲を掻き立てる貴重な経験となりました。



青森中央文化専門学校

## ファッション甲子園衣装展示

2025年8月31日に弘前市民会館大ホールにて開催された「第24回全国高等学校ファッションデザイン選手権大会 ファッション甲子園2025最終



審査会]で衣装展示をさせていただきました。今回は「Bunka Fashion Live 2025 -Fantasia-」から、おとぎ話をベースにダークファンタジーな世界観を表現したテーマ「Memento Mori」を展示しました。

最終審査会は学生全員で見学し、「瑞々しい感性」という大会テーマのもとに集った高校生ならではの柔軟な発想力と、自由な表現に魅了されました。



今回は弘前実業高等学校が久しぶりの優勝を果たし、大いに盛り上がる大会となりました。



青森中央文化専門学校

## 翔麗祭ファッションショー・ Bunka Fashion Live 2026 開催のお知らせ

青森中央文化専門学校では、2025年9月21日に行われた翔麗祭のメインステージにて「NEXUS」と題してファッションショーを開催し、全22作品を発表しました。

2026年2月21日(土)には青森市のアウガ5F AV多機能ホールにて「Bunka Fashion Live 2026 -NEXUS-」の開催を予定しています。

衣装制作からショープランニングまで学生自らの手で作

り上げるファッションショーです。皆様のご来場をお待ちしております。

詳細は青森中央文化専門学校Instagramにて随時お知らせして参りますので、ぜひフォローをお願いします。

**Bunka Fashion Live 2026**  
**-NEXUS-**  
2026年2月21日(土)  
アウガ5階 AV多機能ホール  
第1部 11:30~ / 第2部 14:00~





青森中央経理専門学校

## パソコン講座

2025年8月23日、青森県総合社会教育センターにてパソコン講座を開催しました。本講座は学生たちが講師役

となり、参加者と1対1を基本にパソコンの操作等をレクチャーする形式で行いました。今回は応用講座と題して、

ワードは「イラスト作成」、エクセルは「カレンダー作成」を実施しました。学生たちは分かりやすく説明することを心掛け、時には一緒に操作をしながら対応していました。また、参加者との会話を伴いながら対応していた場面もあり、学生たちにとってはいい経験になったかと思えます。参加者からは「定期的実施してほしい」「時間が足りなかったから次回は長くて欲しい」などのコメントがありました。参加された皆様、ありがとうございました。



青森中央経理専門学校

青森中央文化専門学校

## 2025年度青森中央経理専門学校・青森中央文化専門学校 学園祭

2025年9月20日・21日開催の翔麗祭にて、今年も青森中央経理専門学校の学生が模擬店を出店しました。展示ブースでは、コース毎にパネルを展示し、経理事務コース「チョットお得な株の世界-株主優待-」、医療事務コース

「もし〇〇になったら治療費はどのくらい?」、観光コンシェルジュコース「日本の色別絶景スポット」のタイトルで作品を展示しました。学术交流会館3階のパソコン実習室では、パソコンで作成するオリジナルカレンダーづくりを開

催し、幅広い年齢の方々が参加しました。青森中央文化専門学校は、ファッションショー「NEXUS」を屋外メインステージで披露し、制作した衣装を多くのお客様に観覧いただきました。



# 附属第一・第二・第三幼稚園／中央文化・浦町保育園

教育方針 健康で明るく心豊かな子ども ●友達と仲良く遊ぶ ●思ったことははっきり話す ●よく見、よく聞き、よく考える ●自分のことは自分でやる

## 附属第一幼稚園



SDGsの取り組みが  
環境保全活動団体として表彰され、  
環境フェアで発表したよ★



「いらっしゃいませー！」年長さんが考えた  
職業体験ごっこで異年齢交流★  
お寿司屋さんで握り方を教えてもらったよ♪



ようこそ「つくティーワン」へ♪  
アイスクリーム屋さんになりきって、  
アイスやクレープ、ジュース作りをしたよ♥

## 附属第二幼稚園



『水族館見学』  
見て見てカニさんつかめたよ！すご〜い！



『ピザ作り』自分たちが育てた野菜を使ってクッキング♪  
焼き上がりが楽しみ♪



『保育参観』  
できるかな？絵本にでてくる動物に変身して秋の探検だ！

## 附属第三幼稚園



(上)ひよこ組：ジュースピュ〜おもしろ〜い！  
(下)うぐいす組：バスに乗って遠足へ



(上)かなりや組：ひみつ基地みつかった！  
(下)こぼと組：ア〜ンでっかいぞ！



(上)つばめ組：今年のおいも大きいよ〜  
(下)はくちょう組：枝豆こんににとれたよ〜

## 中央文化保育園



水消火器で命中できました！



みんな笑顔で〇



(上)やっぱり青森の夏はねぶただね♪  
(下)きんぎょねぶたのうわづくり

## 浦町保育園



☆うんどうかい☆  
みんなでたくさんはして、たのしかったよ〜



☆がっしゅくほいく☆  
よみせごっこで、わにわにパニックでたかったよ！



☆あきまつり☆レゴランドINうらまち、  
たくさんのアトラクションがあって、おもしろかったよ〜

## 小さな成長、大きな喜び

幼稚園の先生として2年間勤務した後、バスの運転手として働きはじめてから10年が経ちました。保育現場での業務や経験、また各種研修を通して、チームで協力しながら子どもたちを育てていくことの大切さや、その中にあるおもしろさを日々実感しています。

私自身、3歳と0歳の子どもを育てていますが、日々成長していく姿に驚かされながら、育児に奮闘する毎日です。そ

認定こども園青森中央短期大学附属第二幼稚園  
バス運転手 館山 弥志さん



んな子どもたちの成長を間近で見られる仕事に就けたこと、そしてここまで続けてこられたのは、周囲のサポートがあったからこそだと感じています。子どもたちと関わるこの仕事には、たくさんの魅力と幸せがつまっています。これからもその喜びを大切にしながら、関わっていきたいと思います。

## 「できた！」の笑顔に包まれて

現在、私は1歳児の担任をしています。毎日、子どもたちの笑顔や泣き顔にふれながら、一人一人と向き合う日々です。この時期の子どもたちは、「自分でやりたい!」と言う気持ちが日に日に強くなってきます。でも、まだ手先は不器用で、ズボンやシューズを履いたり、スプーンを使ったりするのうまくいかないことばかりです。でもその「できない」が「できた」に変わる瞬間の輝きは、何物にも代えがたいものです。

最近では、言葉もぐんと増えてきました。「先生、見て!」「自分で!」と、一生懸命気持ちを伝えようとする姿がとても愛お

認定こども園青森中央短期大学附属第三幼稚園  
齋藤 智子先生



しいです。うまく言えなくても、一つ一つの言葉にはその子らしさがあふれていて、聞いているこちらが思わず笑顔になります。笑ったり泣いたり、怒ったり甘えたりする一つ一つの姿が、私にたくさんの元気と優しさをくれます。これからも、そんな子どもたちの「できた!」の瞬間を、見守っていけたらと思います。笑顔と成長にあふれたこの日々が、私にとって何よりの宝物です。

## 食育と保育の連携を目指して

私は食育と保育が連携した活動を通して、子どもたちに【食に対する正しい知識と生きる力】を身に付けてほしいと考えています。保育園では、いもほりやりんどご狩り、おもちゃつき会など食に関する行事も多いですが、他にも食育と保育が連携した活動ができないかと思い、数年前から給食だよりで【食に関する絵本の紹介】を始めました。その月に合った行事食や旬の食材について記載している絵本を年に数回紹介しています。

また、最近は保育教諭と連携した【絵本の給食】を始めました。栄養士がピックアップした絵本を保育教諭が読み聞かせをし、絵本に登場した食べ物を給食やおやつで食べるという活動です。わかりやすく親しみのある絵本から始めたいと思い、『しろくまちゃんのほっとけーき』（ホットケーキ）という絵本を選びました。子どもたちがとても喜んでくれたため、

幼保連携型認定こども園中央文化保育園  
栄養教諭 工藤七瀬さん



『おばけのてんぷら』（天丼）や『ワタナベさん』（ナポリタン）など数冊の絵本メニューを提供してきました。普段の給食であまり使用していない食材を使ったり、食材の種類が多すぎるなど、再現することが難しい絵本もありますが、子どもたちが食べ慣れている食材に代替したり、食材数を調整し、できるだけ絵本と同じ料理になるよう工夫しています。これを機にもっと食や絵本に興味を持ってもらえたら嬉しいです。この活動に快く協力して下さった先生方にはとても感謝しています。

今後も給食管理の勉強に励みながら、子どもたちへの接し方や伝え方、食育の媒体の作り方なども学んで、保育園栄養士として成長していきたいと思っています。

### 読み聞かせたい一冊の絵本

## こどもかいぎ

北村裕花 / 作・絵（フレーベル館）

この絵本は、子どもたちが自分の思いを伝える「こどもかいぎ」を開く話です。「どうして大人は怒るんだろう」「もっと優しくしてほしい」と素直な気持ちを話し合います。最後にお母さんにぎゅーっと抱きしめてもらい仲直りする場面は、読んでいて胸がじんわり温かくなり、「気持ちを伝え合うことの大切さ」を教えてください。子どもたちのまっすぐな言葉を聞きたくなる優しい絵本です。



幼保連携型認定こども園浦町保育園 神田 美宇先生



## 2025青森ねぶた祭

2025年8月2日から7日まで青森市で開催された「青森ねぶた祭」。本学園からは、8月2日・3日「青森中央短期大学附属幼稚園子どもねぶた」として、リベラルアーツ科目「郷土と文化」の授業でねぶた囃子の笛や鉦、太鼓の練習に励んできた短大生と専門学校の学生が囃子方となり、園児のハネトとともに出陣しました。今年52回目の出陣ねぶた「浪裏白跳 張順」（ねぶた師：内山龍星さん作）を率い、園児の元気なラッセラーの掛け声と学生たちのお囃子で、祭りを賑やかに彩りました。



▲扇ねぶた今年のテーマは「桃太郎」

▲地域中学生野球チームボランティアの皆さん



▲運行班として参加した青森中央学院大学硬式野球部学生と佐藤学長

▲青森中央学院大学ねぶた囃子方部メンバーも参戦

### 園児スナップ





■また8月3日には、青森中央学院大学経営法学部卒業生で青森中央学院大学・青森中央短期大学のアンバサダーを務めるタレントの王林さんも参加し、学園ねぶたを一層盛り上げてくれました。



▲石田理事長と挨拶を交わす王林さん

■8月4日「消防第二分団ねぶた会・アサヒビール」の大型ねぶた運行には、青森中央学院大学の学生・留学生がハネトとして参加しました。



## 学園ねぶたの軌跡 ～青森田中学園は2026年に創立80年を迎えます～

青森市幸畑地区での運行から始まり、今年52回目となる附属幼稚園子どもねぶた出陣。学園では、祭り文化の継承に尽力続けています。1978年(昭和53)子どもねぶた連合運行に参加するようになり、その2年後、青森ねぶた祭が国の民族無形文化財に指定されたことを記念し

て、学園ねぶたの先陣を切る大型の「さきがけ太鼓」を制作しました。

1981年(昭和56)学園報こぶしの花が創刊され、学園の出来事や学生たちの活躍が記録されてきました。学園にとって欠かせない年間行事となっている青森ねぶたへの参加記録も残っています。

1996年(平成8)、創立50年を祝いミュージカル発表やコスチュームショー等で盛大に開催された学園祭では、青森ねぶた祭に出陣した学園ねぶたが野外ステージに飾られ、記念すべき年を賑やかに祝いました。



▲子どもねぶた連合に参加し、月刊「幼児と保育」表紙にも掲載された金太郎ねぶた(1978)



▲当時の久保豊理事長の巻頭言と体育館前の「母と子の像」の挿絵が表紙を飾った創刊号(1981)



▲50周年記念学園祭の野外ステージ(1996)

## 青森田中学園報「こぶしの花」第114号

発行:2025年11月

学校法人 青森田中学園

〒030-0132 青森市横内字神田12-1

TEL:017-728-0121

FAX:017-738-8333

「青森中央学院大学・青森中央短期大学 学園広報」より



「こぶしの花」  
バックナンバー



### 「こぶしの花」編集委員

編集長 加藤 澄

山本 明子 石井真由美

外崎 秀香 畑山 朗詠

久慈 雅世 赤坂 裕子

中田 尋美 岩葉 悦子

蝦名久美子 町田美智子



## こぶしの花に投稿しませんか

こぶしの花編集委員会では、学園報に掲載する写真や情報を募集しています。皆さんからの投稿をお待ちしています。

コチラの  
申込フォームを  
ご利用下さい



青森中央学院大学 <https://www.aomoricgu.ac.jp>

青森中央短期大学 <https://www.chutan.ac.jp>

青森中央経理専門学校 <https://ackeiri.ac.jp>

青森中央文化専門学校 <https://acbunka.ac.jp>

認定こども園青森中央短期大学附属幼稚園(第一・第二・第三)

<https://www.chutan.ac.jp/kg>

幼保連携型認定こども園中央文化保育園 <https://www.chuobunka.site>

幼保連携型認定こども園浦町保育園 <https://uramachi.site>